

## 営業所通信③

# 北見営業所からの紹介： オホーツク管内の『こんなことやってます』

日頃より弊社商品をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。今回は北見営業所より、オホーツク管内で活躍する酪農家の方々の事例をご紹介します。

### ○こんな牛舎を建てました。

ロボット搾乳牛舎を新築し、立ち上げから問題なく稼働できた酪農家さんをご紹介します。

以前は80頭規模のタイストールでの繋ぎ飼養でした。昨年秋に120頭規模のフリーストール牛舎を新築し、ロボット搾乳をスタートさせました。

ロボット搾乳稼働から約半年が経過しましたが、これといったトラブルが無い状況です。なぜここまで問題なく稼働できたかを振り返ってみると、3つのポイントがあったように感じます。

#### ①旧牛舎（繋ぎ牛舎）で乾乳牛を飼育しない

飼養形態が異なる環境で牛を分娩させるとトラブルが増えてしまうことがあります。この農家さんはあえてロボット搾乳牛舎に乾乳牛のスペースを造りました。乾乳前期・後期、分娩までを搾乳牛と同じフリーストール牛舎で飼養する事によってストレスが軽減され、移行期のトラブルを防いでいると思われます。



写真1 乾乳牛のスペース



写真2 牛舎に併設されている分娩房

#### ②蹄が悪くなる前からフットバスを使ったこと

蹄が悪くなる前に予防としてフットバスを始めたことが、採食量の低下をはじめとしたトラブルを未然に防ぐ第一歩になっていると思います。

#### ③採食量が多いサイレージを給与

ロボット搾乳では低い濃度でのTMR給与が基本ですので、いかに採食量を増やせるかがカギとなります。そのため、草地の管理は徹底されています。

他にもセパレートゲージを活用して治療牛や発情牛を別スペースに分離するなどありますが、決定的なのは上記の3点のように感じます。もちろんこの農家さんの飼養管理技術の高さがベースとなっているのは言うまでもありません。私自身、尊敬する点が沢山ある非常に優れた農家さんです。

### ○高刈りで高品質サイレージを調製しました。

今年ももう少しで1番草の収穫が始まります。一年で最も大変な時期ですが、とても大事な時期です。弊社ではサイレージの発酵品質の改善の必要性とその方策を訴え続けています。そこでサイレージ調製の優良事例をご紹介します。

それは約10cmの高さでの高刈です。もちろんその分収量は減少しますが、栄養価、嗜好性は抜群の効果を発揮します。

より高品質の粗飼料を調製すれば、牛にとって健康

的で安心して搾ることができます。発酵品質に大きく関与する異物の混入を防ぐことをこの高刈には期待することが出来ます。

昨年この高刈を実際にやってみた酪農家さんがいます。新播草地、経年草地問わず非常に良い発酵品質と高栄養のサイレージが出来ました。TDNの高さ、NFCの数値の高さには驚きました。

2番草の伸びも断然良くなります。夏が暑く早魃気味の年でも、この刈り方をすると再生に必要な栄養もしっかり残っているため、比較的楽に伸びることができます。また、この刈り方で今までよりも早魃に弱いチモシーの寿命を長くすることも期待できます。刈り取った後の草地もふかふかで歩いていてとても気持ち良かったです。

みなさんも今年の1番草サイレージの調製時に是非一度この高刈を実践してみてください。



写真3 刈取後の様子

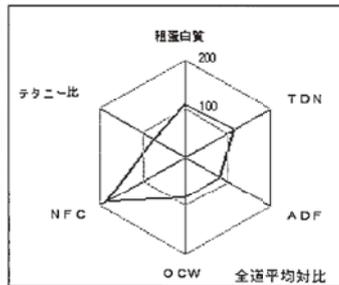


図1 1番草サイレージ分析値(太線) 雪印種苗株式会社北海道研究農場(2011年)



写真4 ○ラップの置きかたを工夫してみました

写真はラップサイレージの置場ですが、列の間にもすき間があることがお判りいただけると思います。実は前後方向にもすき間があります。なぜこうしているのかというと、ラップを押し付けながら密着させて積むと、ロールが歪んでしまったり、ラップが擦れて薄くなったり、或いは破れたりすることがあります。そこ

にカビが発生するような事象を避けるための工夫です。この積み方を実践されている酪農家さんのラップを損傷させない＝カビさせないことへのこだわりはこれだけではありません。

- ・ピンホール対策として、草地ではラッピング作業を行わない。火山灰を敷いて転圧し、その上にブルーシートを広げて作業を行なう。
- ・グラブで挟持して運ぶ距離を短くする。離すときにグラブとラップが擦れないように、接地を確認してからレバーを操作する。

以上のように、細心の注意を払って作業されています。「ラップはカビて当たり前」「カビた外周は捨てるから大丈夫」このような概念にとらわれていませんか？ここにも乳質改善へのヒントがあると思います。

写真5・6 暑熱対策でミストクーラー始めました。



北海道でも夏季は高温多湿となり、生乳生産量の低下や疾病の多発が問題となっています。皆様の牧場では既にトンネル換気や扇風機など暑熱対策を施されていると思いますが、その補助として、水の気化熱を利用したミストクーラーを紹介します。水タンク（水道からの給水も可）と噴霧ノズルがついた扇風機をイメージしてください。効果が及ぶ範囲は狭いですが、移動が可能ですので体調の悪い牛に重点的に使用したり、乾乳舎に持って行ったりと活躍してくれると思います。

最後になりましたが、今回紹介させて頂きました方々にはこの場を借りて、厚くお礼申し上げます。

これからもお客様方により良い情報を提供できるよう我々も日々勉強していきたいと思っております。

また、何かお困りの事・相談事がございましたら、気軽に弊社営業までお問い合わせください。

今後とも宜しく願いいたします。

(北見営業所 山本友紀)